180 唾液腺腫瘍における^{99m}Tcと^{67}Gaシンチグラムの臨床的有用性に関する検討

三宅秀敏，竹岡　宏，上田真也，堀　雄三，畑　博之，上野真一郎，脇坂昌紀，松本俊郎（大分医科大学放射線科），船越　猛（大分医科大学放射線部）

大分医科大学病院で4年間に唾液腺腫瘍の疑われた50数例に対し^{99m}Tcと^{67}Gaシンチグラムを施行してきた。今回，^{99m}Tcと^{67}Gaシンチグラムをretrospectiveに見直し，両検査が唾液腺腫瘍の存在診断，良悪性の鑑別診断にどの程度有用かを触診所見や超音波所見と比較検討し報告する。

181 頭頸部放射線治療患者における唾液腺シンチグラフィの検討 ── 2因子解析法とROI法との対比 ──

奥野恵子，竹田芳弘，中川富夫，栄　勝美，河野良寛，清水光春，新屋晴孝，平木祥夫（岡山大学放射線科）永谷伊佐雄（岡山大学中央放射線部）

頭頸部放射線治療患者に、放射線治療開始前と終了後数日内に唾液腺シンチグラフィを施行した。このdataを用い、2 factor analysis により唾液腺因子機能曲線を作成し、この曲線と各唾液腺についてROIを設定した場合の唾液腺の機能曲線を比較し、唾液腺機能評価に対する有用性を検討した。　2因子解析により得られた唾液腺因子機能曲線は、ROI法と比べ両側耳下腺および顎下腺の総合的な機能を客観的にとらえることができ、放射線治療による唾液腺機能への影響の評価に用い得る可能性が示唆された。

182 放射線照射による唾液腺機能障害の唾液腺シンチグラフィによる評価

間宮敏雄，町田喜久雄、本田憲業、高橋　卓、滝島輝雄、釜野　剛、村松正行、鹿島田明夫、井上優介（埼玉医大総合医療センター・放射線科）

放射線治療を施行した頭頸部悪性腫瘍患者15例に経時的な唾液腺シンチグラフィを行い、放射線による唾液腺の機能障害を定量的に評価することを試みた。99mTcO$_4$の10mCi（370MBq）を静注後、10分間は5秒／1 frame,30分間は30秒／1 frameでデ゛ータ収集を行った。RI静注後30分にシナール1.0gの経口投与による味覚刺激を行った。左右耳下腺、顎下腺にROIを設定しtime activity curve(TAC)を求めた。TACより摂取率、分泌率、を算出し放射線による唾液腺の機能障害を評価する。また因子分析をもちいて唾液腺の機能障害も評価することを試みた。

183 Sjögren症候群の唾液腺シンチグラフィ

宮崎知保子、久保公三、手戸一郎（市立札幌病院中央放射線部）　大本晃裕、河野通史（同第二内科）　末永通（同耳鼻咽喉科）

1977年の厚生省基準によるSjögren症候群確実例36例、疑い例29例の唾液腺シンチグラフィの検討を行なった。Tc-99m pertechnetate 185MBqを急速静脈内投与後、30秒毎45分間データストアし、3分毎に撮像した。また投与後30分でクエン酸を口中に含ませ唾液分泌を刺激した。得られたtime activity curveからそのpatternをⅠ－Ⅳ型に分類し、Ⅱ型以上を異常とした。さらに確実例29例、疑い例20例の耳下腺造影をRubin Holt分類し、唾液腺シンチグラフィと比較した。Rubin Holt分類Ⅱ以上を異常とした時の唾液腺シンチグラフィのsensitivityは85.2%、specificityは40.9%であった。また唾液腺シンチグラフィにおける耳下腺と顎下腺のpatternの検討も行った。

184 食道シンチグラフィによる嚥下機能障害に関する検討

高橋恒男、加藤邦彦、小野恵、柳澤融(岩手医大・放)
長岡宏明(岩手医大・中放)　佐々木章(岩手医大・一外)

【目的】食道癌術前・後、食道アカラシアなどにおける嚥下障害時の嚥下機能を食道シンチグラフィ・内圧測定により検討した。【対象と方法】疾患群20例と健常群5例を対象とし、食道シンチは^{99m}Tc-Colloid 74MBq(10ml)を嚥下させ関心領域(ROI)を口腔、咽頭、上部食道に設定し、各ROIでの残存量、排泄、充満速度等を時間放射能曲線およびその一次微分より求め、食道内圧は咽頭、上部食道にて測定した。【結果】疾患群、特に癌術後例では郭清の影響により口腔内残存量が多く、食道充満速度の遅延、食道内圧との相関を認め、経過とともに健常例に近く回復する傾向にあった。【まとめ】食道シンチによる嚥下機能の検討は簡便かつ迅速で、嚥下機能障害の程度、その経過観察に有用といえる。

Presented by Medical*Online